

# 新郷村ごみ減量行動計画の実績 について（令和5年度分）

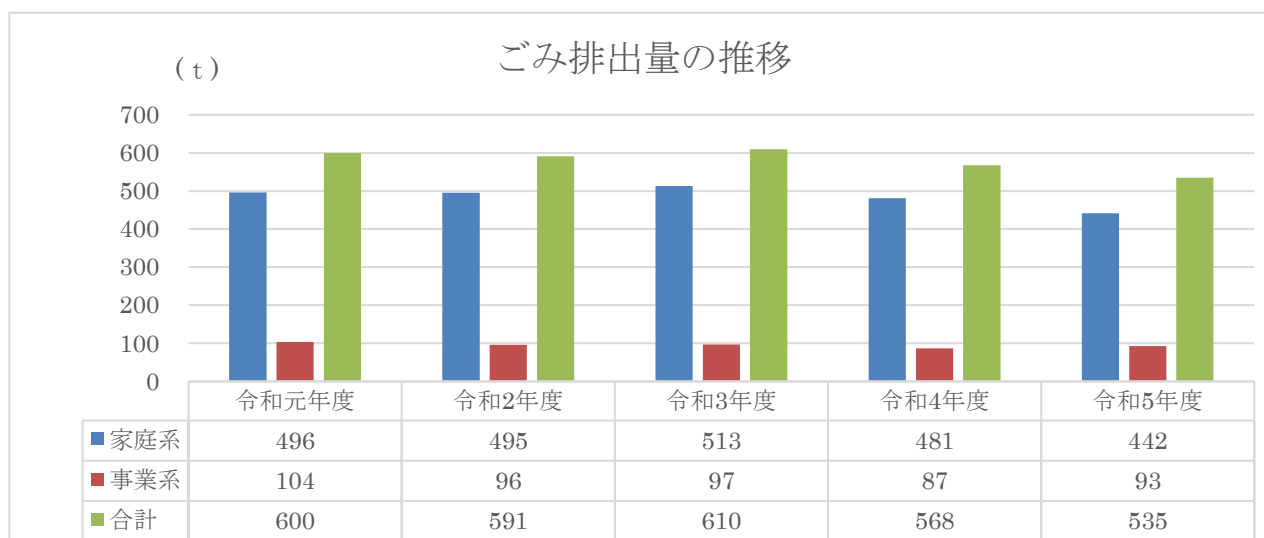
令和7年1月

新郷村

## ごみ処理の現状

### (1) ごみ排出量と集団回収量

令和5年度の新郷村のごみ排出量は535tで、そのうち家庭系ごみと事業系ごみの排出割合を見ると、家庭系ごみが442tで全体の82.6%、事業系ごみが93tで全体の17.4%を占めています。ごみ排出量は、令和4年度と比較して、令和5年度が5.8%減少となっています。集団回収量は、令和4年度と比較して、令和5年度が2t減少となっています。



(t)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
集団回収量	16	9	16	11	9

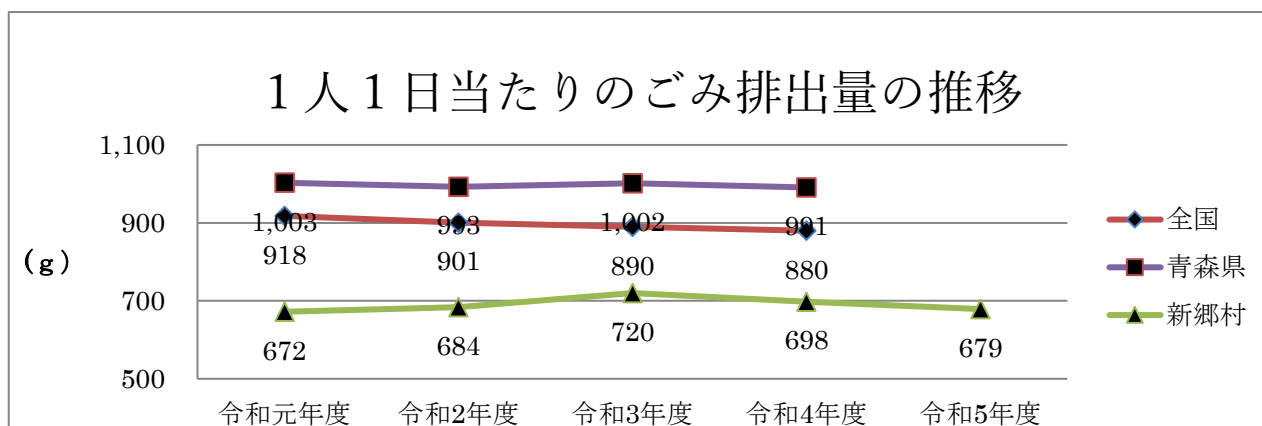
※ごみ排出量=収集ごみ量+直接搬入ごみ量

※家庭系ごみとは、住民生活に伴って各家庭から排出されるごみ。(集団回収含む)

※事業系ごみとは、事務所・学校・病院・商店等から排出される産業廃棄物以外のごみ。

### (2) 1人1日当たりのごみ排出量

令和5年度における住民1人1日当たりのごみの排出量は、679gで令和4年度と比較して、令和5年度が2.7%の減少となっています。



※ 1人1日当たりのごみ排出量=ごみ総排出量(ごみ排出量+集団回収量)×1,000,000÷人口(各年度の10月1日現在)÷365日

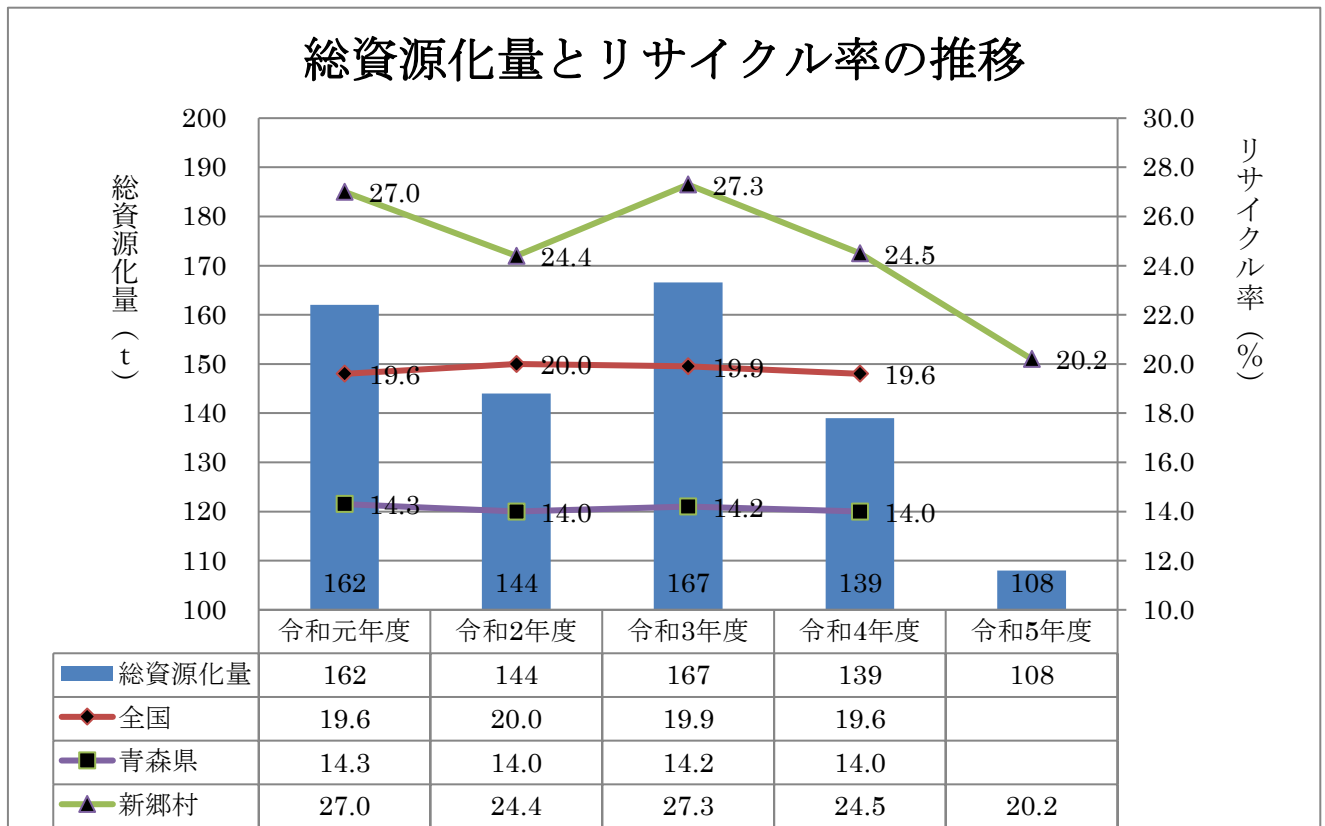
※ ごみ排出量=収集ごみ量+直接搬入ごみ量

※ 集団回収量とは、住民団体等によって回収された量で、ごみの総排出量に含める。

※ 数値は、一般廃棄物処理事業実態調査(環境省、青森県)の数値を引用。令和5年度は、新郷村による集計。

### (3) 資源化量とリサイクル率

令和5年度におけるごみの総資源化量は108 tで、令和4年度と比較して、令和5年度が22.3%減少しています。リサイクル率は20.2%で、令和4年度と比較して令和5年度が17.6%減少しています。



※ 総資源化量＝資源化したごみの総量（直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量）

※ リサイクル率＝総資源化量÷（ごみ総処理量+集団回収量）×100

※ 数値は、一般廃棄物処理事業実態調査（環境省、青森県）の数値を引用。令和5年度は、新郷村による集計。

## ごみ減量・リサイクル率目標達成状況

(1) これまでの目標年度の1人1日当たりのごみ排出量、ごみ総排出量、リサイクル率

項目	平成24年度 (基準値)	令和4年度	令和5年度
1人1日当たりのごみ排出量 (g)	611	698	679
ごみ総排出量 (t)	646	568	535
リサイクル率 (%)	27.4	24.5	20.2

(2) 目標達成状況

項目	平成24年度 (基準値)	令和5年度の 目標値	令和5年度の 実績	目標達成率	達成状況
1人1日当たりのごみ排出量	611g	670g	679g	98.7%	目標未達成
ごみ総排出量	646t	525t	535t	98.1%	目標未達成
リサイクル率	27.4%	28.0%	20.2%	72.1%	目標未達成

## 【達成状況】

- ・令和5年度の1人1日当たりのごみ排出量の実績は、679 gであり、目標値である670 gに対して9 g上回り、達成率で見ると98.7%で目標達成とはなりませんでした。計画初年度の平成24年度より68 g増加しています。
- ・令和5年度のごみ総排出量の実績は、535 tであり、目標値である525 tに対して10 t上回り、達成率で見ると98.1%で目標達成とはなりませんでした。計画初年度の平成24年度から111 tの減少でした。
- ・令和5年度のリサイクル率の実績は20.2%であり、目標値である28.0%に対して7.8%下回り、達成率で見ると72.1%で目標達成とはなりませんでした。計画初年度の平成24年度から7.2%の減少でした。

## 【考 察】

令和5年度の新郷村の住民1人1日当たりのごみ排出量は679グラムで、令和4年度の全国・青森県より201 g以上少ない状況にあります。過去5年間を見ると令和3年度の720グラムをピークに年々減少傾向にあります。

ごみの総排出量は、535 tで、過去5年間で最も少ない状況です。

令和5年度のリサイクル率は、令和4年度の全国平均値より0.6%以上高い状況にありますが、令和元年度から年々、減少傾向にあります。

住民1人1日当たりのごみ排出量、ごみ総排出量が減少傾向で推移している要因のとして、以前より啓発活動している生ごみの水切りの徹底が浸透してきていること、またコロナ禍が落ち着き、自宅の滞在時間が減少したため家庭ごみが徐々に減少してきたことや各ごみの分別等の徹底の浸透が考えられます。

また、リサイクル率の減少については、令和5年度の資源ごみ（総資源化量）の量が令和4年度に比べて22.3%減少していますが、これは十和田ごみ焼却施設における焼却灰のセメント原料へのリサイクルに係る、焼却灰生成に関する薬品の性能向上により、焼却灰が減少したことが大きい要因と考えられます。